

■柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議 議事録（要旨）

日 時：令和5年3月27日（月）午後3時00分から午後5時00分まで

会 場：柳井市役所3階大会議室

出席委員：國本善平、木阪泰之、松重伸子、小嶋英之（職名、敬称略）

事務局：出相貴裕経済部次長、地久里真人商工観光課主査、宮田芳成商工観光課主査、南寛之商工観光課主査

議事資料 柳井市観光振興ビジョン

令和3年度観光振興ビジョン進捗会議議事録

柳井市観光振興行動計画（後期）

柳井市観光振興ビジョンの目標に対する進捗・評価について

概要

議長に國本善平を選出。事務局から、事業の進捗状況について『「柳井市観光振興行動計画」後期（令和3～7年度）』により説明を行った。それに対する意見の概要は、次のとおり。

●「柳井市観光振興行動計画」について

- ・前回会議の指摘事項を基に行動計画を修正して示されているが、後期の行動計画もあと3年しかない。行動計画には未だ不十分な点が見受けられる。しっかりと内容にして行動しなければビジョンを実現することはできない。今回の意見を基に行動計画及び次年度以降の取組の修正が必要である。

●振興の4本柱

（1）百話百景創作プラン

- ・百話百景創作プランはビジョンの中でもメインの取組として位置付けられてスタートした。地域文化の掘り起こしとしては行動計画に従って地道に続けるべきプランだが、進捗していない状況であり、関連ツアーの参加者も乏しい実態がある。それを観光誘客に結び付ける事業として観光振興ビジョンのメインメニューには位置付けられない。
- ・地域文化の掘り起こしの意味合いが強く、商工観光課だけでなく、他の課にも協力してもらいたい。

（2）「担い手確保」抜本改革プラン

①観光地教育の開始

- ・令和5年度は観光協会の高校生部会を立ち上げる予定がある。学生たちのICTを使った情報収集能力を活かした取組み、効率的に金魚ちょうちんを製作、販売ということを考えていきたい。将来的に事業として金魚ちょうちんの作製ができればと考えている。
- ・中学校の美術部と中学生部会を作って活動する予定もある。

②観光行政の資質向上

- ・ビジョンではコミュニケーション能力、情報収集能力の向上と記載があるので、イベントに出展することとは意味合いが異なる。実施状況の部分はビジョンの求める内容に絞って記述すべき。

③役割分担

- ・ビジョンの意図する役割分担の意味は、ビジョンが掲げるプロジェクトごとに担い手を明確にするということである。個別のイベントで役割分担するという意味ではない。
- ・現時点でできるビジョンの個別的な部分は体系的に役割を決めて進めるべき。
- ・行動計画の記述も年度別の期限を設けてやっていくべき。

④観光協会の法人化

- ・法人化については毎年度「検討する」のではなく、法人化の検討も目標年次を設け、結論を出すという形で行動計画を書き換えるべき。
- ・法人化のメリット、デメリットを整理するのは何年も時間をかけなくてもできる。収益事業、税金、名称をどうするかなどを検討して答えを導いていく。

⑤（仮称）柳井市観光推進機構の設立

- ・ビジョンに掲げている推進機構という形は実質的には難しいと思われるが、観光協会の法人化を前提にするのではなく、当面は行政が中心に位置してもよいのではないかと。
- ・観光協会の法人化が進まない背景に 2 つの協会の統合という問題があるが、統合の議論を条件にせず、推進機構を協会よりも少し大きな枠組として考えれば、これまでと異なる視点で議論が進むかもしれない。

（3）「観光力結集施設」設営プラン

①「白壁の町並み」、「麗都路通り」、「柳井川」のエリア化

- ・イベントの手数を打つことはもちろん必要ではあるが、日常的にこのエリアに来た人が楽しめることが目指すことが重要。観光を盛り上げるということではビジョンの中でも重要なものだ。
- ・民間団体が借りやすい場所がエリア内にあれば新しい催しを行うことができる。
- ・空き家補助制度などをもっと PR する工夫が必要。エリア内にどのくらいの空き家があるかをリストアップ（空き家カルテによる把握）も必要。
- ・JR 駅がこれほど近い重伝建は他にはないので、このアドバンテージも意識して PR すべき。

②「大畠瀬戸」の拠点化

- ・大畠観光センターの道の駅化については施設の構造上、実現困難であるが、観光センターの他の

面での機能強化は検討することはできる。営業時間（現在は15時まで）の延長やハード面の強化等検討する。結論や方向性を出す。

（４）「新たな人の流れ」創出プラン

①「観光知の拠点」づくりとネットワーク化

・各施設が意識をして連携することが必要。4つのステージ連携会議ではフラワーランドを中心にイベントを行っているが、イベントだけでなく日常的に各施設を周遊できるような仕掛けが必要。

②「観光力」発揮のための施策連携の推進

・職員の観光に関する意識を深める必要がある。

③「人と仕事と定住」を組み込む観光振興施策

・移住促進については移住者の数を把握することが必要だが、その前提もできていない状況。

●必須の観光インフレパッケージ整備戦略

①「観光風土」の不断の醸成

・様々な事業に取り組むことで柳井に愛着を持ち、それが延いては観光誘客につながる。
・継続する事業を行動計画に入れたうえで、弘前との交流事業のような新たな取組みがあれば行動計画に記載するようにすべき。

②「観光資源」の意欲的獲得と整備

・様々な団体が取り組んでいるイベントを漏れなく情報収集して、計画に挙げていき、実績を厚く記載してほしい。

③「おもてなし」の常態化と進化

・「②「観光資源」の意欲的獲得と整備」と同様に細かな取組の積み重ねが大切。

④「情報マネジメント・プロモーション力」の資質向上と差異化

・観光大使の発信力を活用できていないので、積極的に活用してほしい。

⑤「広域連携」の質実ある展開

・広域連携はビジョンの中でも重要な部分と認識している。

- ・既存イベントに乘るだけではなくて、自ら考えて展開する意識をもってほしい。連絡調整会議だけではなく1市4町が協議し盛り上げていけるような事業が展開できれば良い方向に向かうと思う。

●全体

- ・ビジョンは進展していない。
- ・行動計画については、項目ごとに書いているが、著しく十分ではない。方針を打ち出すとか、展開を記述するなど、より具体的にすべきである。
- ・年次計画なので年次を決めて時系列の節目をつけて、期限を区切って記載すべき。
- ・実績はなるべく数字を記載し、次年度以降も目標値を入れるべきである。
- ・検討している間に計画期間そのものが終了しかねない状況であり、スピード感を持って行動計画を実施していく。